

# NEWS TOPICS

## 町なみ再生シンポジウムI

### 「歴史的景観とまちづくり」開催をめぐって

コロナ禍における開催は、様々なことに見舞われました。特に、[まん延防止等重点措置]が3月21日まで延長されたことにより、感染予防対策を万全に実施するため、シンポジウムも規模縮小することになりました。つまり、ここに掲載したポスターにもあるように、当初は3人の講師の方にご講演いただく予定でした。しかし、講演者をお二人にして、時間的な余裕をもって開催することにしました。

3人目に予定していた、関西大学教授 西澤英和氏のご講演「伝統的な木造建築の耐震性を考える一構造実験の現場から」については、来年度開催予定のシンポジウムIIのほうで講演していただくこととして、改めて、余裕をもってご講演をお聞きすることになりました。このテーマについても、皆さんの関心が高かったので大変残念でしたが、今回は当初の予定より、ゆっくりと時間をとって、お話をお聞きすることができますと思います。シンポジウムIIにつきましても、また、ニュースやチラシ、ポスター、ホームページなどでお知らせします。



# 堺 環濠都市 NEWS

[ニュース]

北部

歴史的まちなみを  
未来に活かすため

## 町なみ再生シンポジウムI 「歴史的景観とまちづくり」開催!

# vol.32

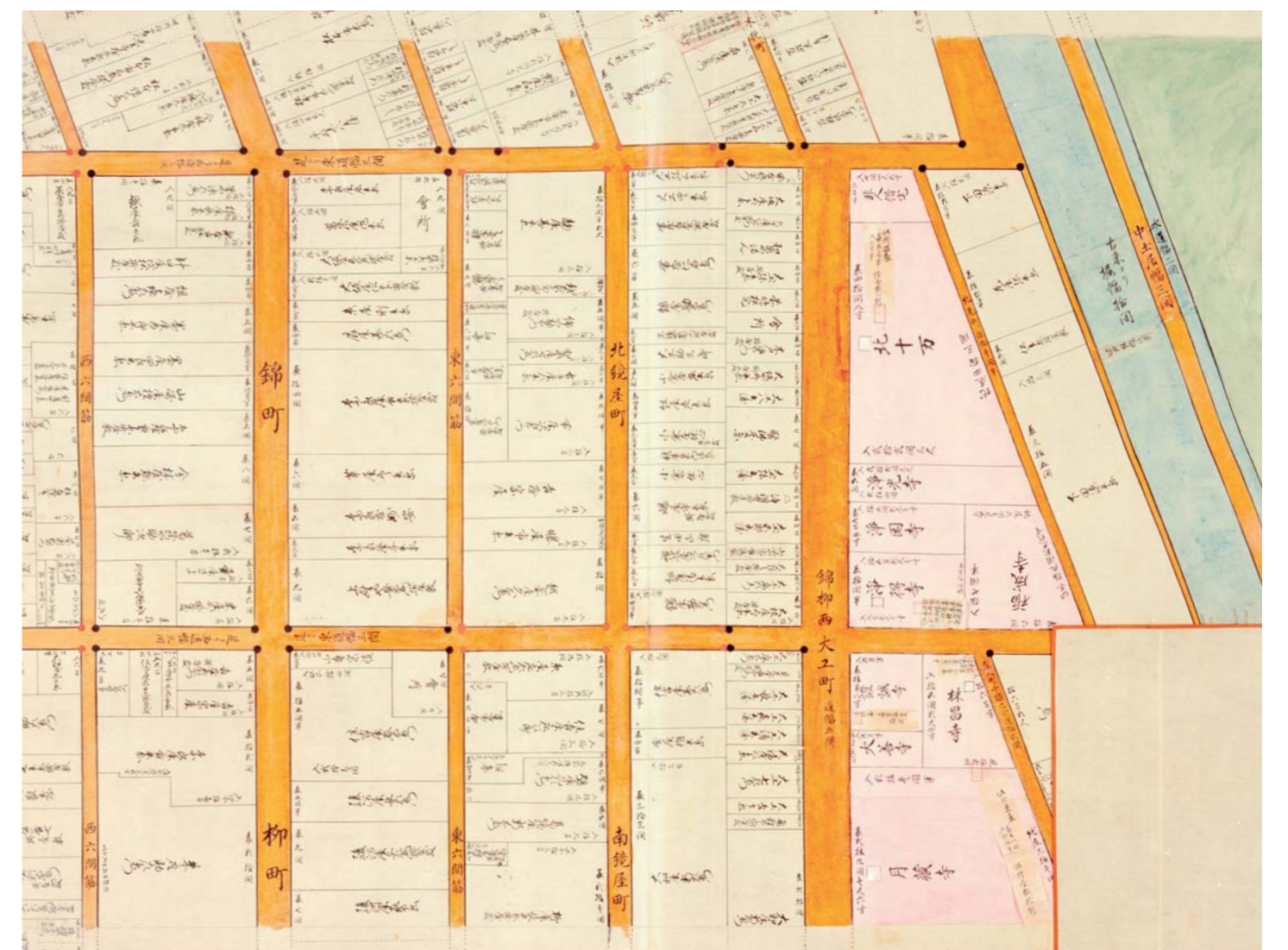
### INFORMATION

- ▶ 4月の月いちバザーのお知らせ  
4月は着物・和装バザーです!  
4月16日(土)/17日(日) 場所：堺町家案内所(北旅籠町大道西・内田家住宅1F)  
時間：11:00～16:00
- ▶ 5月の月いちバザーのお知らせ  
5月14日(土)/15日(日) 場所：堺町家案内所(北旅籠町大道西・内田家住宅1F)  
時間：11:00～16:00
- ▶ 第11回定期総会(令和4年度)の開催予定  
5月22日(日) 場所：錦校区地域会館1F(神明町東1丁・山之口筋南西角)  
時間：13:30～  
詳細については、チラシなどでお知らせします。

※予定は変更になることがあります。

- ▶ 協議会へのお問い合わせはこちら  
堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会  
TEL 072-228-0953 [志賀]  
MAIL info@sakaimachinami.jp
- ▶ 「まちなみ修景補助制度」へのお問い合わせはこちら  
堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室  
TEL 072-228-7432  
FAX 072-228-8468 担当:石間、加賀山、田中

今号の表紙  
今号の表紙も元禄堺大絵図の模写本の一部で、主に現在の錦之町と柳之町の東部です。前号の表紙の地図の、ちょうど東側の地域が描かれています。現在の錦之町には、国の重要文化財で、堺市立町家歴史館の山口家住宅があります。この地図では東六間筋と「北鏡屋町」(現在、山之口筋と呼ばれている道筋)に挟まれた、錦之町の最南端に位置し、「越前屋」の名前があります。「越前屋」は山口家の屋号です。一時、山口家の名前が筋の名前がついたと、まことしやかに解説されていましたが、これは、全く間違いで、当時宿院にあった丘(名越の丘・夏越の丘)の上を山之上、丘の下を山之口(やまのくち)と称していて、そこに続く道筋であったことから、その名前がつけました。また、この筋の北端である北旅籠町には「山口筋之分道幅三間」と記されていて、既に、この道筋の名前が使われていたことがわかります。



「元禄堺大絵図模写本」【部分】(堺市博物館蔵)

前号NEWS発行から  
現在までの進捗情報

## 町なみ再生シンポジウムI「歴史的景観とまちづくり」開催しました！

| 2022.3.20(日) 午後1時20分～午後4時30分 会場：堺総合福祉会館 大研修室 |

テーマ：『歴史的景観とまちづくり ～「都市」の記憶を取り戻すために～』

歴史都市再生のために、私たちに何ができるかその答えを、みんなで一緒に、考えてみませんか？

ということで、1部の基調講演で宇陀市まちづくり推進課 森本陽子氏と京都工芸繊維大学教授 清水重敦氏に講演していただき、2部では、参加者も交えて、質問や意見交換をし、私たちに何ができるか考えました。

### 1部＜基調講演＞

『〇〇〇〇したまちに、〇〇〇〇〇〇が、する。～宇陀松山の暮らしとまちづくりの話～』

[宇陀市まちづくり推進課 森本陽子氏]

森本氏の講演の表題「〇〇〇〇したまちに、〇〇〇〇〇〇が、する。」に、まず、興味をそられました。

お話は、宇陀市がどこにあるか、宇陀松山とは、どんなところか、そして、重伝建制度について、季節を感じる伝統行事について等の解説から始まり、課題解決のための活動について、大変わかりやすく、情熱を込めて話していただきました。

課題解決の活動には、自分の町を美しく見せる取り組みとして、地元の人々の愛着と誇りを醸成し、外の人には、また行きたい、できれば住みたいと思ってもらえるようにと始めた、町並みライトアップ「宇陀松山夢街道」や地元・宇陀市の名産ダリアを使った環境芸術「宇陀松山華小路」の取り組みがあり、特に、平成21年に始めた「宇陀松山華小路」には女性が進んで参加され、大きな力になっていることなどを紹介されました。また、松山地区の課題解決を考えると、どこから考えても辿り着くのは、「空き家」をなくすことなので、2011年以来2年に1度のペースで奈良・町家の芸術祭「はならあと」に参加して、使用した「空き家」19棟の内、13棟がお店や住まいになったことなど、大きな成果も上げられています。

表題の「〇〇〇〇したまちに、〇〇〇〇〇〇が、する。」には、それぞれ、

㊦㊧㊨したまちに㊩㊪㊫がする “調和したまちに、行政がする”

㊬㊭㊮したまちに㊯㊰㊱がする “文化継承したまちに、住民がする”

㊲㊳㊴したまちに㊵㊶㊷がする “活き活きしたまちに、私たちがする”

という言葉がはいる、公民協働や役割分担ということを実践を通して、実にわかりやすく示されていました。特に、最後の㊸㊹㊺が、役所も住民もみんなで、というのがすごい！と思いました。

森本さんのお話には、「整備がもつて価値を失うことがあってはならない」「どれだけ『本物』があるか、が価値評価に直結」などの心にしみる言葉もちらりばめられていました。実践に基づくわかりやすいお話は、参加者の皆さんの心に深く刻み込まれたようでした。



『文化的景観として見た堺環濠都市 一自然、歴史、生業から都市と建築をとらえる一』

[京都工芸繊維大学教授 清水重敦氏]

清水先生の講演は、本協議会主催では4回目になります。まず、2020年2月22日には、町なみ再生連続講座(総第8回)として、「文化的景観としての都市と町家～京都、宇治、岐阜そして堺～」というテーマで、初めてご講演いただき、私たちは、初めて「文化的景観」という概念を知りました。そして、他の町との比較による堺の独自性も再発見しました。かすかな希望が見えた講演会でした。(ニュース24号掲載)

2回目は、同じ年の6月14日の令和2年度定期総会にともなう講演会でした。「堺環濠都市北部地区文化的景観リサーチプロジェクトー都市構造、都市史、伝統産業、生活習慣から堺を読むー」というテーマで、北部地区の調査を前提にお話しいただきました。前回の講演の内容を発展させ、「文化的景観」による価値を前提としたまちづくりを提唱され、参加者の住民の大きな期待を集めました。参加者が異口同音に喜びと協力を語っていたのが印象的でした。先生も手応えを感じられたようでした。(ニュース25号掲載)

3回目は、今年度(令和3年度)の定期総会にともなう講演会で、コロナ禍のために開催が10月17日までずれ込みました。やはりコロナ禍で、調査は2020年10月3日に1度だけ実施(ニュース27号掲載)されましたが、その後停滞する中、今後の調査の方向性を含めて、より具体的な考え方を示していただきました。初めて、参加された方が、「こんな考え方があったのだ」と感銘を受けておられました。(ニュース30号掲載)

今回のシンポジウムでは、以上の経過を踏まえての講演で、重要伝統的建造物群保存地区や重要文化的景観の特徴を事例に基づいて比較検討された上で、堺環濠都市の歴史都市としての個性を前提として、堺環濠都市を文化的景観として捉えていくという方向性を示されました。

### 2部＜公開討論＞共に考える「歴史的景観とまちづくり」

今回は、シンポジウムということで、参加者の質問や意見をできるだけ幅広く伺うべく、特別に時間を設けましたが、参加者の皆さんの活発な発言と講師のお二人の熱意ある回答で充実した時間となりました。特に、講師のお二人は以前からのお知り合いでリラックスした雰囲気の中、若い参加者の「お二人のキャラクターが対比的でとてもわかりやすかった」という感想にもあるように、お二人の個性でも、シンポジウムを盛り上げていただきました。

会場からの質問には、いろいろと、実践的な踏み込んだ質問も多く寄せられ、それに真摯に答えていただく中で、あらたに重要な問題が提起されました。私たちがこれらの問題を自らの中で反芻し、今後の活動の指針としていきたいと考えます。



### 宇陀・松山について

宇陀松山の歴史的まちなみは、奈良県北東部の宇陀市にあります。宇陀市は、宇陀郡菟田野町・大宇陀町・榛原町・室生村が2006年に合併してできました。宇陀松山地区はもと大宇陀町にあり、戦国時代に城下集落として誕生しました。織豊から江戸時代初頭にかけて、豊臣家配下の大名によって大規模に整備され、その後、幕府直轄領となる中で、商家町として繁栄しました。

交通の要衝であった松山地区は、近代に入ってから郡の政治経済の中心地となり、現代に到るまで、各時代の歴史と文化が重層的に堆積し、貴重な文化遺産を継承してきましたが、2006年には、江戸時代から続く伝統的な町なみが重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。



宇陀松山の町なみ(宇陀市提供)